

1 単元名 跳び箱を使った運動遊び

2 運動の特性

(1) 一般的特性

跳び箱を使った運動遊びは、いろいろな高さや向きの跳び箱を、跳び乗ったり、跳び下りたりして乗り越えることが楽しい運動である。

(2) 子どもから見た特性 (男子 12名 女子 12名 計 24名)

A 運動の楽しさの体験状況

①運動することは好きですか。

とても好き	好き	きらい	とてもきらい
18名	6名	0名	0名
楽しいから (7名)	楽しいから (5名)		
体を動かすのが楽しいから (3名)	走るのが楽しいから (1名)		
力がつくから (3名)			
元気になるから (2名)			
体がぼかぼかするから (1名)			
健康になるから (1名)			
ダンスが好きだから (1名)			

②体育の学習は好きですか。(複数回答)

とても好き	好き	きらい	とてもきらい
22名	2名	0名	0名
バランス城が楽しいから (9名)	水遊びが楽しいから (1名)		
いろいろな種類の運動をやれるから (7名)	難しいから (1名)		
体を動かすのが楽しいから (3名)			
走るのが楽しいから (3名)			
みんなと楽しく一緒にできるから (3名)			
できるようになるとうれしいから (2名)			
踊るのが楽しいから (1名)			
水遊びが楽しいから (1名)			
リレーが楽しいから (1名)			

③休み時間にどんな遊びをしていますか。(自由記述)

〈外〉 つきやま (6名) 鬼ごっこ (4名) うんてい (2名) ジャングルジム (1名) タイヤとび (1名)
〈中〉 絵描き (6名) 読書 (2名) おしゃべり (2名)

④高いところ（遊具など）から跳ぶ遊びをしたことはありますか。

ある	ない
9名	15名
ジャングルジム (7名)	
タイヤ (1名)	
うんてい (1名)	

⑤跳び箱を使って遊んだことはありますか。

ある	ない
15名	9名
開脚跳び (6名)	
跳び越し (5名)	
台上前転（跳び箱の上ででんぐり返し）(4名)	
またぎ乗り (2名)	
かかえ込み跳び（ぐーとび）(1名)	
※幼稚園や保育園で行った (1名)	

⑥跳び箱を使った運動遊びの学習をやってみたいですか。

すごくやってみたい	やってみたい	やりたくない
16名	4名	4名
楽しそうだから (6名)	頑張ればできそうだから (1名)	幼稚園のとき失敗したから (1名)
ジャンプして跳び下りたいから (3名)	保育園のときできなかったから (1名)	高いのが嫌だから (1名)
跳ぶのが楽しそうだから (3名)	どうやって跳ぶのか知りたいから (1名)	3段しか跳べないから (1名)
跳び越えるのが楽しいから (2名)	やったことがないから (1名)	こわいから (1名)
開脚跳びができたから (2名)		

B 運動の楽しさを求める学び方の習得状況

①きまりや順番を守って学習ができますか。

できる	できない
24名	0名

②友達と仲よく学習ができますか。

できる	できない
24名	0名

③学習をする中で困ったときにはどうしますか。

先生に聞く	近くの友達に聞く	仲のよい友達に聞く
8名	8名	8名

④友達のよいところを見つけたらほめてあげていますか。

よくしている	たまにしている	あまりしていない	していない
6名	17名	1名	0名

⑤友達のよいところを見つけたらまねしていますか。

よくしている	たまにしている	あまりしていない	していない
11名	7名	5名	1名

⑥遊びたいところを自分で決めることができますか。

できる		できない	
21名		3名	
自分で選ぶと楽しいから	(6名)	友達が多いところに行きたくなるから	(2名)
バランス城のときに決められたから	(5名)	空いているところに行くから	(1名)
少ないところでやりたいから	(5名)		
固定施設遊びで決められたから	(3名)		
決められないと時間の無駄だから	(1名)		
この場で頑張りたいと思うから	(1名)		

C 運動の楽しさを味わうための技能の習得状況

	性別	C									備考(実態調査 AB より)			
		踏み越し跳び 片足踏切 (3段)		跳び乗り4段 支持 両足踏切		またぎ乗り			開脚跳び (幼児用)	かえるの足打ち	体育好き	跳び箱の経験	遊びたい場所を選べる	
		踏切	着地	踏切	着地	踏切	支持	着地						
1	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	とても好き	ある	できる
2	男	△	△	○	○	△	○	○	—	—	1	好き	ない	できる
3	女	○	○	○	○	○	○	○	—	—	1	とても好き	ある	できる
4	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	とても好き	ある	できない
5	女	△	△	△	両ひざ	△	△	○	—	—	1	とても好き	ある	できない
6	男	○	○	○	○	○	○	○	—	—	1	とても好き	ある	できる
7	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	とても好き	ない	できる
8	男	○	△	△	片ひざ	△	○	△	—	—	1	とても好き	ある	できる
9	女	△	△	△	○	△	△	△	—	—	1	とても好き	ある	できる
10	女	△	○	○	○	○	△	△	—	×	×	好き	ある	できる
11	男	○	○	○	両ひざ	△	○	△	—	—	1	とても好き	ない	できる
12	男	△	○	○	両ひざ	○	○	○	—	—	1	とても好き	ない	できる
13	女	△	○	○	○	△	○	○	—	—	2	とても好き	ある	できる
14	男	○	△	○	両ひざ	○	○	○	○	○	1	好き	ある	できる
15	男	△	△	△	○	△	○	○	—	—	1	とても好き	ある	できる
16	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	とても好き	ない	できる
17	女	△	△	△	両ひざ	△	○	○	—	—	1	好き	ある	できる
18	男	○	△	△	両ひざ	△	○	○	○	○	1	とても好き	ある	できる
19	女	△	○	×	×	△	△	○	—	×	×	好き	ない	できる
20	男	△	△	△	両ひざ	△	△	△	—	×	×	好き	ある	できる
21	女	△	○	○	両ひざ	○	○	○	—	—	1	とても好き	ある	できる
22	女	△	○	○	両ひざ	○	○	○	—	—	1	とても好き	ない	できない
23	女	○	○	○	○	○	○	○	—	—	1	とても好き	ある	できる
24	男	○	○	○	○	○	○	○	—	—	2	とても好き	ない	できる

○…片足、両足踏切でリズムよく跳び乗ることができた。

△…跳び乗ることはできた。

×…跳び乗ることができなかった。

「両ひざ」…両ひざをついて乗った。

「ひざ」…片方だけひざをついて乗った

支持「○」…1回で下りられた。

【考察】

A 運動の楽しさの体験状況について

本学級の子どもたちは、運動が好きな子どもが多く体育の学習を楽しみにしている。これまでに学習してきた多様な動きをつくる運動遊び（バランス・移動）が楽しかったことや「いろいろな種類の運動ができるから」といった理由で、全員が体育の学習を好きだと答えている。休み時間には、鬼ごっこや遊具で遊んでいる子どもがいる一方で、体育が好きでも外遊びを好まない子どももいる。「暑いから」「外でやることがないから」という理由で教室で本を読んだり絵を描いたりしていることが多い。好んで外遊びをしている子どもも、高いところから跳び下りるといった経験をしたことがある子どもは全体の約3分の1と少なく、高さに対して恐怖心を抱いている子どももいる。

跳び箱を使った運動遊びについては、8割の子どもが「すごくやってみたい」「やってみたい」と答えている。幼稚園や保育園の経験から「跳ぶのが楽しそう」「ジャンプして跳び下りたい」「跳び越えるのが楽しい」などの理由で跳び箱を使った運動遊びの学習について前向きな気持ちをもっている子どもが多かった。一方で跳び箱を使った運動遊びを「やりたくない」と答えている子どもたちは、「幼稚園のときに失敗したから」「高いのが嫌だから」「怖いから」といった不安や恐怖心を抱いているようである。

そこで本単元では、跳び箱を使った運動遊びに不安や恐怖心を抱いている子どもたちが前向きに活動したくなるような魅力的な場を用意したり、忍者の世界観を設定したりして、自由に活動させる。水深台などのやさしい場を用いることで恐怖心を取り除き、一人一人が意欲的に学習に取り組むことができるようにしていきたい。

B 運動の楽しさを求める学び方の習得状況について

「きまりや順番を守って学習ができますか」や「友達と仲よく学習ができますか」という質問に対して全員が「できる」と回答した。各学習においても学習のルールが身に付いてきており、グループや2人組で活動する際には友達と協力して活動することができている。しかし、「学習の中で困ったときにはどうしますか」という質問に対しては、「近くの友達に聞く」と答えた子は3分の1と少ない。日常生活の様子を見ていると友達と全くかかわれない子はいないが、協力し合ったり、教え合ったりして活動している友達は限られているように感じる。また「友達のよいところを見つけたらほめてあげていますか」や「友達のよいところを見つけたらまねしていますか」という質問に対して「よくしている」と回答した子は少ない。よかったところを発表するように促すとほとんどの子が言えるが自発的に言えている子は少ない。

そこで本単元では、単元を通して活動するグループをつくる。毎時間、グループでかかわり合う時間を設け、自分の活動を紹介したり友達の動きをまねしたりしてみることで誰とでも楽しく学習したり、いろいろな遊び方を身に付けたりする姿を目指したい。

「遊びたいところを自分で決めることができますか」という質問に対してはほとんどの子どもが「できる」と回答した。しかし、これまでの「固定施設を使った運動遊び」や「多様な動きを作る運動遊び（バランス・移動）」などの活動を見ていると仲のよい友達のいるところに行き、自分で場を選んでいない子の姿も見られた。1年生の子どもたちにとって自分のやりたい場を選ぶということは一人一人のめあてをもつことにつながると考えるため、本単元では、一人一人が自分で遊びたい場を選択できるように指導していきたい。

C 運動の楽しさを味わうための技能の習得状況について

本学級の子どもたちは保育園や幼稚園での跳び箱を使った運動遊びの経験に差があり、技能差も大きい。またぎ乗りではほとんどの子が腕支持をしながら前進することができていたが、踏み越し跳びや支持での跳び乗りでは、助走からスムーズに踏み切ることができない子が半数以上いた。また、支持での跳び乗りでは、着手をせず足で跳び乗ってしまう子や着手と同時に足で乗ってしまう子も見られた。跳び箱を跳び越す際の助走、踏み切り、着手といった一連の動きのリズムがつかめていないことがわかった。着地に関しては、前へ転んでしまう子や膝を曲げてやわらかく着地できない子がいた。

そこで、本単元では数歩の助走から踏み切って跳び箱に跳び乗り、着地するまでの動作をリズムよく行えるように場を工夫していく。リズムよく跳ぶにはまず高さに対する恐怖心を取り除く必要があるため、高さに慣れるような場や時間を取っていく。様々な場でリズムよく跳び乗ったり跳び下りたりするようになることで跳び箱を使った運動遊びの楽しさを味わわせたい。

3 研究主題と学習の手立て

(1)市教研体育部会の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

(2)視点と学習の手立て

視点1 子どもの実態を的確に把握するとともに、運動の特性と指導内容を明確にした上で道すじや学習活動を工夫し、ねらいを明らかにすることで子どもたちが学習意欲やめあてをもって取り組めるようにする。

<手立て>

○意欲的に活動できる「忍者」という世界観の設定

実態調査から子どもたちは高さに対して恐怖心を抱いていることがわかった。高さや着地への恐怖心、不安感がなくなるとリズムよく跳ぶことができず、遊びも広がらないと考える。そこで、子どもたちの恐怖心や不安感を少しでも減らすために、楽しく意欲的に活動できるように「忍者」という世界観を設定した。

子どもたちは前期に行った「多様な動きをつくる運動遊び（バランス・移動）」の単元で、忍者になりきって学習を行った。忍者になりきることで意欲的に活動する姿が見られたため、今回もそのテーマを継続して行う。「跳び箱城に忍び込もう」というストーリーを設定し、お城に向かうのにいろいろな障害(場)を乗り越えていくことで子どもたちの意欲化を図っていききたい。お城や巻物などの掲示物を用意したり、音楽を使ったりして、子どもたちがより忍者の世界観に浸れるようにしたい。

また、忍者になりきることで素早い動きを意識し、助走から着地までをスムーズにリズムよく行えるだろう。本学級の子どもたちにとっては、「強く踏み切ろう。」「膝を曲げて柔らかく着地しよう。」という言葉の掛けるよりも、「敵に見つからないように素早くお城に忍び込もう。」というテーマを与える方が動きをイメージしやすく、リズムのよい助走・踏み切りや膝を曲げた柔らかい着地などの動きにつながるだろうと考えた。さらに忍者の世界観に浸り、基本的な動きを身に付けられるようにするために毎時間の始めに「術タイム」を設ける。「術タイム」では以下の2つの術を行う。

- ① 「変身の術」・・・アザラシ、犬、クマなどの動物に変身して歩く。自分の体重を手で支えることで腕支持の力を養わせたい。
- ② 「跳び下りの術」・・・跳び上がり、跳び下りる活動を繰り返し、高さや着地に慣れさせる。安全面に気を付け、着地を確実に身に付けさせたい。

視点2 一人一人のよさを伸ばし、できる喜びを実感できる手立てを工夫する。

<手立て>

○友達とのかかわり

・術カード

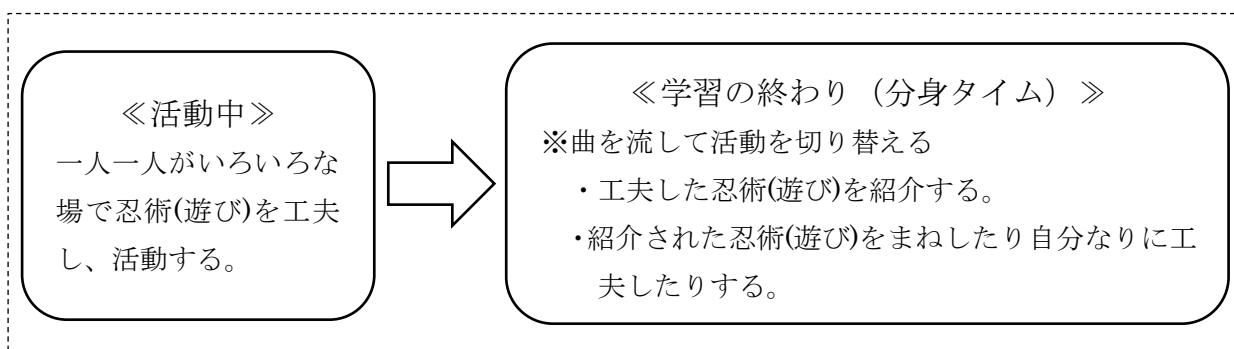
子どもたちは「固定施設を使った運動遊び」で「技カード」を作った。自分たちがつくった技を「技カード」に書かせ、ボードに掲示したところ、遊具で遊ぶのが苦手だった子も技をつくり出すことに楽しさを覚え、意欲的に活動するようになった。また、つくり出した技を友達が行ったらシールを貼るようにさせたことでさらに意欲が高まった。そのよさを今回の学習でも生かしていく。

本単元においても、1時間終わるごとに術(遊び)をカードに書き、自分の「術カード」を作る。場ごとのボードに貼り、自分たちの忍術を増やしていく。「術カード」をもっと増やしたいという思いから多様な動きを考えるようになるだろう。また、可視化させることで友達との交流がしやすくなることも期待できる。友達がつくった術(遊び)をやってみようとする姿が自然と生まれることで、たくさんの動きができるようになるだろう。術カードを見ることで、自分で活動する場や内容を決められるようにしたい

・忍者グループによる分身タイム

「多様な動きをつくる運動遊び(バランス・移動)」で行った「バランス城に忍び込め」では、忍者グループをつくり、単元を通してそのグループで活動をさせた。そうすることで仲間意識が生まれ、単元後半には友達の動きをまねしたり学習カードによかった動きを書いたりしている子が多くいた。

本単元においても、グループでのかかわり合いのよさをさらに広げるため、単元を通して4人組の忍者グループをつくり活動を行う。学習の終わりに工夫した遊び方を発表し合い、まねする時間(分身タイム)を設ける。活動中は一人一人が修行を行い忍術(遊び)を広げていくが、毎時間グループで自分がつくり出した術(遊び)を発表し、まねしたいと思った術をまねしたり、自分なりに工夫したりすることで動きを広げられるようにさせたい。また、紹介された動きをほめたり、認めたりするような温かい雰囲気をつくっていくことで、意欲的に跳び箱を使った運動遊びに取り組ませたい。

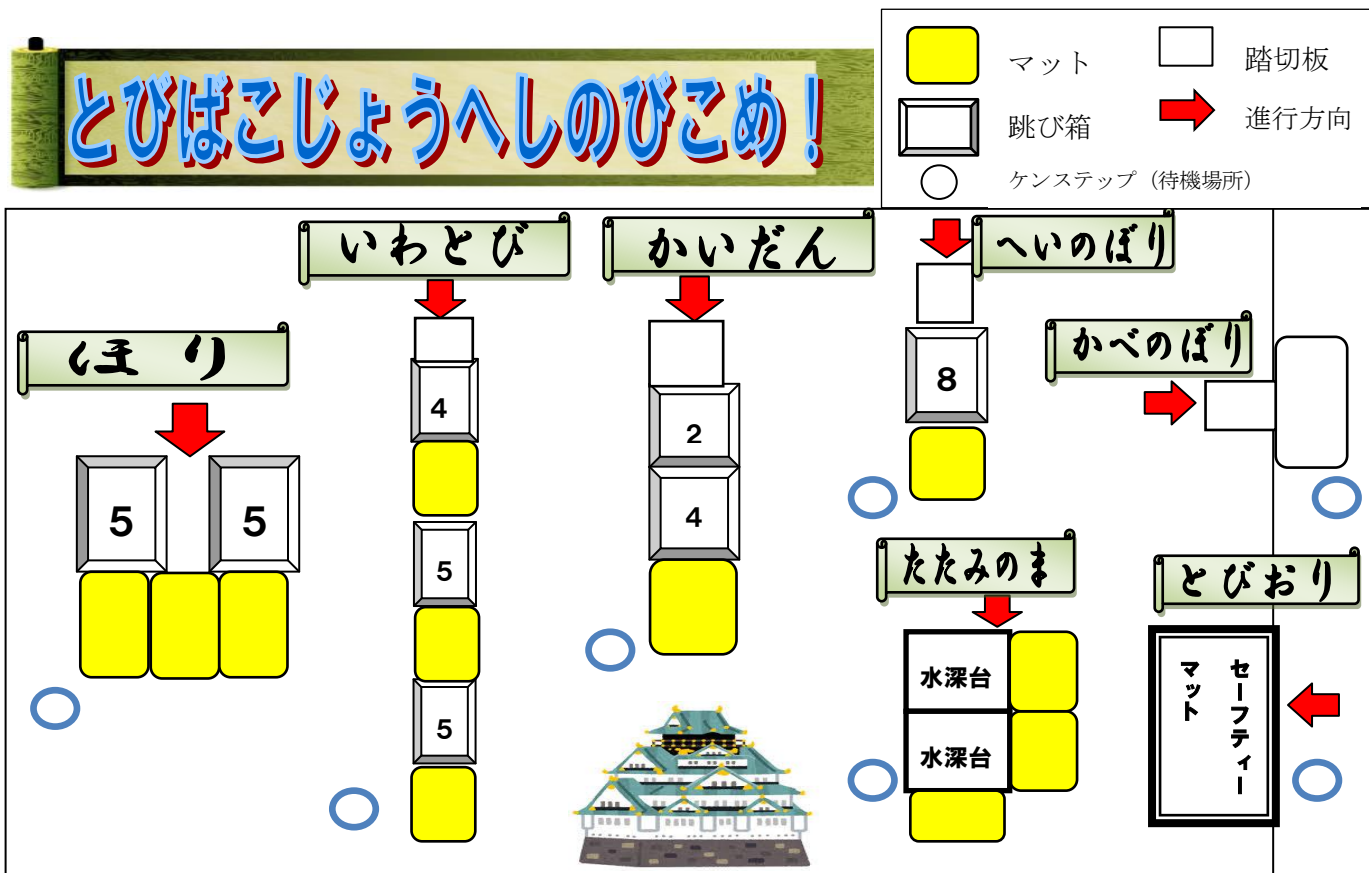


○場の工夫

本学級の子どもたちは、跳び箱を使った運動遊びをほとんどの子が楽しみにしているが、「高いから怖い」「開脚跳びができない」といった理由で跳び箱に対して怖さや苦手意識を抱いている子もいる。また、幼稚園や保育園の経験から跳び箱を使った運動遊びは「開脚して跳び越す」というイメージがついており、できないとつまらない、楽しくないと考えている。

そこで本単元では、先入観にとらわれず遊びの中で、いろいろな場を体験し、「踏み越し跳び」「跳び乗り、跳び下り」「またぎ乗り」といった動きのバリエーションを増やしていきけるような場をつくっていく。また、お城の掲示物を用意し、いろいろな障害を乗り越えてお城へ忍び込むという設定をつくり、場の名前を工夫することで楽しみながらできる喜びを味わうことができるようにさせたい。

最初の場は教師が提示し、その後子どもたちの実態を踏まえて場を変えていく。跳び箱の上に乗ることに恐怖心がある子には、水深調節台を用意する。



<予想される動き(身に付けさせたい)>

<p>【かべのぼり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支持での跳び乗り 	<p>【とびおり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・跳び下り 	<p>【へいのぼり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支持での跳び乗り 跳び下り 	<p>【たたみのま】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・踏み越し跳び ・支持での跳び乗り 跳び下り
<p>【いわとび】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・踏み越し跳び ・支持での跳び乗り 跳び下り ・支持でのまたぎ乗り またぎ下り 	<p>【かいだん】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・踏み越し跳び ・支持での跳び乗り 跳び下り ・支持でのまたぎ乗り またぎ下り 	<p>【ほり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腕支持 ・支持での跳び乗り 跳び下り 	<ul style="list-style-type: none"> ・台の上で前転

4 学習のねらい

○跳び箱を使った運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り友達と仲よく運動したり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。 【関心・意欲・態度】

○跳び箱を使った運動遊びの行い方を知り、遊び方を工夫したり友達の動きをまねしたりできるようにする。 【思考・判断】

○跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りや跳び乗り、安全な着地ができるようする。 【技能】

5 評価規準(おおむね満足できる状況)


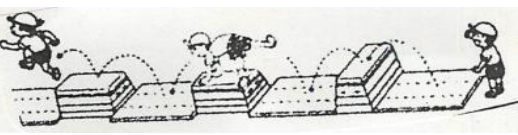

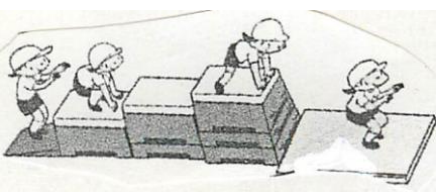
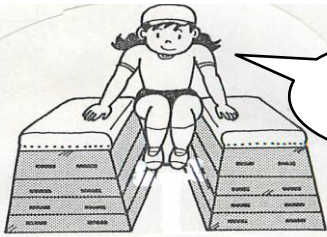
	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・器械・器具を使つての運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ・運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。 ・友達と協力して、器械・器具の準備や片付けをしようとしている。 ・運動をする場や器械・器具の使い方などの安全に気を付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・器械・器具を使った運動遊びの行い方を知るとともに、運動をする場や使用する器械・器具などを変えながら、いろいろな運動の仕方を見つけている。 ・器械・器具を使つての運動遊びの動き方を知るとともに、友達のよい動きを見つけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱を使った運動遊びでは、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りや跳び乗りなどができる。
学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ①跳び箱を使つての運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ②きまりを守り、友達と仲よく運動しようとしている。 ③友達と協力して場や用具の準備や片付けをしようとしている。 ④場の安全に気を付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①跳び箱を使った運動遊びの行い方を知り、いろいろな動きを見つけている。 ②動き方を知り、友達のよい動きを見つけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りや跳び乗りができる。 ②安全に着地をすることができる。

6 学習の道すじ (本時4/5)

	1	2	3	4(本時)	5
0 ↓ 4 5	オリエンテーション	<<術タイム>> ・変身の術 ・跳び下りの術 ねらい 跳び箱城に忍び込もう。 ・いろいろな場で活動を楽しむ。 ・分身タイムを行う。			
関	① ③	④		②	まとめ
思			①	②	
技		②	②		①

7 学習活動と教師の支援

は じ め	<p>1 オリエンテーションをする。 ○学習のねらいや道すじを理解し、学習の進め方について見通しをもつ。 ○用具の使い方、場の準備や片付けの仕方を理解する。 ○跳び箱を使った運動遊びの行い方、ルールやマナーについて理解する。 ○学習カードの書き方、使い方について理解する。 ○つながる運動を行う。</p> <p>2 試しの、跳び箱を使った運動遊びを行う。</p> <p>3 学習のまとめをする。</p> <p>4 後片付けを行う。</p> <p>5 整理運動をする。</p> <p>◇跳び箱を使っの運動遊びに進んで取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度①】</p> <p>◇友達と協力して場や用具の準備や片付けをしようとしている。 【関心・意欲・態度③】</p>	
な か	<p>学習内容と活動</p> <p>1 学習の場づくりをする。</p> <p>2 準備運動をする。</p> <p>3 術タイムを行う。 ○変身の術 アザラシ→犬→クマ→片足クマ ○跳び下りの術</p> <p>4 学習のめあてを確認する。</p> <p>ねらい 跳び箱城に忍び込もう。</p> <p>5 いろいろな場で跳び箱を使った運動遊びをする。 【かべのぼり】 【とびおり】</p>	<p>教師の支援・指導(○)、評価(◇)</p> <p>○安全に気を付けながら、協力して準備するように声を掛ける。</p> <p>◇きまりを守り、友達と仲よく運動しようとしている。 【関心・意欲・態度②】</p> <p>◇場の安全に気を付けようとしている。 【関心・意欲・態度④】</p> <p>○着手につながるよう、手の平を開いて支持するよう指導する。</p> <p>○膝を柔らかく曲げて安全に着地ができるように実際に教師が提示するなどして指導する。</p> <p>○跳び下りることに慣れてきたら、少し高いところでもやってみよう促す。</p> <p>◇安全に着地をすることができる。 【技能②】</p> <p>○安全に気を付けるよう掲示物を用いて約束などを確認する。</p> <p>○膝を曲げて柔らかい着地ができている子を称賛することで、危険な跳び下り方にならないようにする。</p> <p>○いろいろな跳び方をしたり、何度も挑戦したりするよう声をかける。</p>

	<p>【へいのぼり】</p>  <p>よじのぼるぞ。</p> <p>【いわとび】</p>  <p>【たたみのま】</p>  <p>【かいだん】</p>  <p>【ほり】</p>  <p>池に落ちないようにしよう！</p> <p>6 分身タイムを行う。 ・術(動き)を発表し合う。 曲名「四方八方肘鉄砲」</p> <p>7 学習のまとめをする。 ・学習カードに記入する。 ・術カードに記入する。</p> <p>8 後片付けを行う。</p> <p>9 整理運動を行う。</p>	<p>○友達の動きをほめたりまねしたりしている子を称賛することで、意欲的にかかわり合えるようにする。</p> <p>○動きを見つけられなくて困っている子には、それぞれの場に掲示されている術カードをみて、まねしてみるよう促す。</p> <p>○両足踏み切りができない子には「バン」などのオノマトペを用いてイメージをもたせる。</p> <p>◇跳び箱を使った運動遊びの行い方を知り、いろいろな動きを見つけている。 【思考・判断①】</p> <p>◇友達のよい動きを見つけ、まねしている。 【思考・判断②】</p> <p>◇跳び乗りや跳び下り、手をついてのまたぎ乗りや跳び乗りができる。 【技能①】</p> <p>○認め合いが行えているグループを称賛する。</p> <p>○まねしたいと思う術(動き)をやってみよう声掛けする。</p> <p>○全体に紹介したい術(動き)があれば教師が紹介する。</p> <p>○次時の予告をして学習の見通しをもち、主体的に学ぼうとする意欲をもてるようにする。</p> <p>○安全に気を付け、協力して片付けができるよう声をかける。</p>
<p>な か</p> <p>ま と め</p>	<p>10 学習のまとめをする。</p> <p>○跳び箱遊びを楽しく協力して行うことができたか。</p> <p>○安全に気を付けることはできたか。</p> <p>○友達のよい動きを見つけたり、まねしたりできたか。</p> <p>○跳び箱に跳び乗ったり跳び下りたり、手を着いてのまたぎ乗りや跳び乗りを着地に気をつけてすることができたか。</p>	

